住宅における古さの表現に関する研究

Study on expressions about the oldness of house

学籍番号　47126761
氏　　名　飯島　康太郎
（Iijima Kotaro）
指導教員　大野　秀敏　教授

1. 序

1-1. 背景

現在日本では、空き家の増加や建設業界における二酸化炭素排出量削減の要請などの理由から、既存のストックを活用していくことが求められている。その中で、購入する住宅は依然として新築が好まれる傾向にある。その背景には、一般的に住宅において「古さ」がマイナスイメージを持つということが考えられる。

それに対し、建物のもつ「古さ」自体にも価値があると考える。伝統的な建物のもつ古さに関しては、その価値は広く認められるところだろう。しかし、それ以外の普通の建物も、歴史や街並、人々の生活を形づくってきたものとして価値がある。建物のもつ歴史、「古さ」を受け入れ使っていくことで、スクラップアンドビルドでは得ることのできない、豊かな生活空間をつくることができるだろう。

1-2. 目的

一方で、建物の「古さ」と言ってもその価値観や捉え方は漠然としている。そこで、建物の「古さ」の問題が最も顕在化すると考えられる住宅のリノベーション事例において古さがどのように扱われているかを考察し、住宅における「古さ」の価値観の一端を明らかにすることを研究の目的とする。

1-3. 手法

消費者に近い住宅メディアである住宅雑誌の住宅解説記事を取り上げ、「古さ」に対する記述を分析する。それらは記者の目や考えを通して書かれたものではあるが、人々の住宅観の形成を担っていると考えられる。頻繁に用いられる表現は重視されている事柄を表すという考えのもと、どのような表現がどれだけ使われたかを比較することで、住空間において重要とされる価値観をあぶり出す。

1-4. 既往研究の中の位置づけ

メディアを対象にした研究には、その空間構成に着目したもの、共有空間・公室空間の位置づけや、その時代的変遷、建築写真によるイメージ形成に関するものがあるが、

【L72-24】
明るく広い家に住みたいと思っていたので、鉄骨造の構造を露出させて、天井が高くてオープンな空間にしてほしいとお願いしました。
（LiVES 72 pp. 25-26）

対象：	＜その他空間＞	空間
	＜建物全体＞	家
性質：	＜建物の性質＞	鉄骨造
状態：	＜空間の状態＞	明るく／広い／天井が高く／オープンな
	＜素材・仕上げ＞	構造を露出させ

図 1　分析事例

意匠的側面をテキストから研究したものは見当たらない。また、テキスト資料から分析を行っているものは、建築家の言説を対象に、建築作品がもつ概念を明らかにしたものが中心であり、一般的な住宅に関して述べられたものは見当たらない。一般消費者に近いメディアである住宅雑誌を対象とすることで、大衆にとっての住宅観がどのようなものであるか、そこに「古さ」がどのように関わっているかに迫るという点で、本研究の独自性があると考える。

2. 研究対象

2-1. 研究対象の選択

リノベーション住宅の掲載数が多く、新築の注文住宅も多く扱っており幅広い読者層が想定されることから、住宅雑誌『LiVES』（第一プログレス）を資料とする。対象は過去１年間に掲載されたリノベーション住宅３７事例の解説文である。

2-2. 語句の抽出

解説記事において、対象となっている住宅の解説の他、施主が理想とする空間像など、読者に対して魅力的な空間として書かれた記述を幅広く集める。次に、どこがどのような空間なのか、どのような印象の空間か、が読みとれる語句を抽出する。

3. 分析と考察

3-1. 全体の概要

抽出の結果、1,867 の語句を得ることができた。それらを整理すると、評価の対象となる＜空間＞＜物＞、それらがどのようなものかを説明する＜評価＞に分かれる(表1)。本研究では、「古さ」がどのように捉えられているかを考察するため、＜評価＞のうち＜物の印象＞の評価に用いられた語句に着目する。

表 1　抽出された語句の概要

カテゴリ			例	頻度	合計
空間	空間一般		空間／部屋	70	
	機能を示す空間		リビング／寝室	316	
	その他空間		土間／ロフト	31	
	空間構成		間取り／プラン	27	444
物	住宅全体		住まい／家	70	
	内装・外装		インテリア／佇まい	33	
	建物の構成要素		柱／天井	220	
	家具・設備・小物		テーブル／冷蔵庫	116	
	外部の要素		木々／緑	5	
	リノベーション		リノベーション	2	446
評価	建物の評価		鉄骨造／3階建て	119	119
	空間の評価	空間の性質	自由に仕切れる	4	
		空間の状態	ワンルームの／回遊性のある	228	
		空間の印象	開放的／籠り感	17	249
	物の評価	物の性質	外装材の／可動式の	60	
		物の状態	白い／タイル張りの	327	
		物の印象	武骨な／すっきりとした	222	609
合計					1867

表 2　＜物の印象＞を表す語句

カテゴリ	頻度	含まれる言葉
楽しさ	14	楽しい／面白い／賑やか／遊び心／興味深い
落ち着き	32	心地よい／居心地／和める／快適な／ゆとりある ／ゆったりと／穏やかな／安らぎ／ゆとり／ストレスにならない／優しい ／気取りが無い／落ち着いた／あたたかみ／優美／おおらか
整然・簡素	28	美しい／すっきり／シンプル／ライン／潔い／無駄の無い ／ベーシックな／プレーン
粗野	33	ヴィンテージ／ラフ／ざっくりとした／ハードな／武骨／骨太な ／屋外の雰囲気を感じさせる／インダストリアルな ／倉庫のような／ビルのような／素材感／素地／廃材風
重厚さ	21	深みのある／立派な／頑丈そうな／堂々とした／味わい／風情 ／趣／古びた／年代風の／古い質感／古さ／重厚感を増している ／力強く／木造住宅の歴史を物語る／本物っぽく見える
現代的	8	モダン／瀟洒／ホテルライク
懐古的	12	レトロな／アンティーク調／和風／日本の伝統的な／数寄屋造りの
差異性	28	ユニーク／個性的／ひと味違う／意外性のある／独特な ／ここにしかない／他には無い／クリエイティブな ／デザイン性の高い／大胆な／思い切ったデザインの／アクセント ／存在感／全体のイメージを引き締めるような
物との関係	10	生きる／相応しい／新たな息吹をもたらす／同居する ／合わせている／馴染む／調和する／しっくり来る／関係性
多様性	3	多様な／多彩な／ミックステイスト
漠然とした評価	12	雰囲気が良く／印象的／豊か／ちょうどいい
個人的な評価	31	理想の／理想的な／好みの／好きな／希望通り／気に入った ／お気に入りの／こだわった／自分らしい ／自分自身が表れている／住む人の想いが具現化したような ／今住みたい／住み慣れた

3-2. ＜物の印象＞を表す語句

＜物の印象＞を表す語句は１２のカテゴリで捉えることが出来た(表 2)。これらのうち、記述頻度が高かったのは、《落ち着き》、《整然・簡素》、《粗野》、《差異性》、《個人的な評価》である。この内、《落ち着き》、《整然・簡素》、《粗さ》、《差異性》はいずれも空間の様子を表した評価であり、住空間において重要な意匠的価値観だと言える。

3-3. 「古さ」が評価されたもの

積極的に「古さ」に価値を見出して使われているものを明らかにするため、＜物の印象＞に影響を与えている対象に絞り、何ら

かの古さが評価に影響しているものを抽出した。

「古さ」はその性質から、《時を経た古さ》《使い込まれた古さ》《デザインの古さ》に分けることができた。

「古さ」が評価された既存部分の《時を経た古さ》は大部分が木の部材に対して評価したものであるが、一部 ALC パネルやコンクリートの躯体の壁など、工業部材もその経年変化が魅力として評価されている(表4)。また、《デザインの古さ》では伝統的なもの以外にも、アール形状の壁の出隅・スチールサッシ・団地の外観のような近代的な要素が評価されている。伝統的な古いデザインというものは、むくり屋根や数寄屋造りのようにデザインが形式化している。一方で、スチールサッシのデザインや団地の外観なども、ある時代に多くつくられた固有のものであるという点では同じであり、つくられてからの年月の長さが異なるだけである。分析の結果は、伝統的なものの古さも近代的なものの古さも、同列に評価され得ることを示している。一言に「古い」と言われる建物のディテールや建物形式も、体系化し、このような時代に固有な要素を“発見”することで《デザインの古さ》として評価されるようになるのではないだろうか。

改修部分では家具や小物に対する評価が多く、アイテム的なものの古さの方が受け入れられる傾向があると考えられる(表 5)。また、古さの種類では《デザインの古さ》が多い(表 6)。アンティーク調のものや伝統的なデザインなど、「古さ」の価値が比較的一般化しており、受け入れられやすいと考えられる。《使い込まれた古さ》は既存部分に

表 3　カテゴリ別「古さ」が評価された既存部分

カテゴリ	対象	頻度
構成要素	柱(5)／梁(4)／小屋梁／小屋組み／アール形状の壁の出隅／ALCパネル／躯体の壁／むくり屋根	15
建具／細部	木枠や格子に、型板ガラス、すりガラスなどがはめられた古い建具／スチールサッシ	2
家具・小物		0
内観	中(既存の数寄屋造りの住宅)	1
外観	外観(既存の数寄屋造りの住宅)／建物(団地)	2
建物	数寄屋造り(3)／日本家屋／時を経た建物	6
その他	古いもの	1

表 4　古さの種類別「古さ」が評価された対象

カテゴリ	対象	頻度
時を経た古さ	柱(3)／梁(3)／小屋梁／小屋組み／躯体の壁／ALCパネル／数寄屋造り／外観(既存の数寄屋造りの住宅)／中(既存の数寄屋造りの住宅)／時を経た建物／古いもの	14
使い込まれた古さ		0
デザインの古さ	数寄屋造り(3)／柱(3)／梁(2)／小屋組み／むくり屋根／アール形状の壁の出隅／建具／スチールサッシ／日本家屋／建物(団地の外観)	15

表 5　古さの種類別「古さ」が評価された改修部分

カテゴリ	対象	頻度
時を経た古さ	家具／壁紙／階段の手すり／ドアノブ／テーブルの脚	5
使い込まれた古さ	壁紙(3)／足場板(床)／フローリング／窓／洗面鏡／足場板(DJブース)	8
デザインの古さ	家具(4)／雑貨(3)／照明／コレクション／古道具／インダストリアル／キッチンカウンター／ソファ／吊り戸／リカーラック／H鋼／滑車／建具／パーツ／レンガタイル／壁紙／土間／障子／モールディング	24

表 6　カテゴリ別「古さ」が評価された改修部分

カテゴリ	対象	頻度
構成要素	壁紙(5)／レンガタイル／土間／フローリング／足場板(床)	8
建具・細部	階段の手すり／ドアノブ／建具／パーツ／障子／窓／モールディング／足場板(DJブース)	8
家具・小物	テーブルの脚／家具(5)／雑貨(3)／照明／コレクション／古道具／インダストリアル／キッチンカウンター／ソファ／H鋼／滑車／吊り戸／リカーラック／洗面鏡	20
内観		0
外観		0
建物		0

は見られなかった評価であり、既存建物の「使われた感じ」がするものは「古い良さ」としては受け取られにくく、デザインのために新たに取入れるものとして、「使い込まれた古さ」が受け入れられているのではないかと考えられる。既存建物の「使い込まれた古さ」も、デザインにうまく取り込むことで魅力だと評価され得るだろう。

3-4.「古さ」に対する評価

既存部分、改修部分の＜物の印象＞の記述頻度を比べると、既存部分の古さは《重厚さ》が評価され、また新たに古いものを取入れることで《粗さ》や《差異性》を演出する傾向があることが読みとれる(表 7)。

古さの種類と＜物の印象＞の関係を見ると、《落ち着き》に最も関わりが大きいのが《時

を経た古さ》であり、経年変化が《落ち着き》の印象を生み出していると考えられる(表 8)。さらに、《重厚さ》についても３分の１以上を占め、影響を与えていると言える。《使い込まれた古さ》の影響は多くはないが、《粗野》の印象には《デザインの古さ》とともに大きく関わり、使われた感じが《粗野》な印象を形成していると言える。《デザインの古さ》は《懐古的》な評価に最も関わるが、《粗野》《重厚さ》にも関わり、幅広い捉えられ方をしている。

また、《差異性》にはどの種類の古さも関わっている。これは、新しい住宅をつくる上で「古い」ものを用いることが特殊であるという認識の表れでは無いだろうか。リノベーションを行うにあたり、「古さ」に対する評価が一般化していない現段階においては、「古さ」を用いて《差異性》をうまく演出することで、意匠的な評価の高い設計につなげられると考えられる。

3-5.「古さ」に対する評価の位置づけ

＜物の印象＞全体において評価の高かった《落ち着き》《整然・簡素》《粗野》《差異性》のうち、《粗野》《差異性》において「古さ」に対する評価が半数を占める(表 7)。これらはほとんどが改修部分による評価であるが、既存部分では《差異性》の印象を与えるものとして数寄屋造りが、《粗さ》の印象を与えるものとして無塗装の壁や古びた ALC パネルが挙げられている。昔に建てられた数寄屋造りのような希少性のある建物を活かした特徴的な空間や、経年した工業部材の《粗野》な印象を取入れたデザインすることで、意匠的な評価の高い設計につなげることが出来ると考えられる。

また、《懐古的》《重厚さ》はほとんどが「古さ」に対する評価によるものである。これらの＜物の印象＞は、記述頻度こそ多くはないが、住空間において「古さ」ならではの価値観を形成していると言えるだろう。

表 7　既存部分・改修部分の＜物の印象＞

	楽しさ	落ち着き	整然・簡素	粗野	重厚さ	現代的	懐古的	差異性	合計
既存部分	0	7	0	1	11	0	8	2	29
改修部分	2	3	0	15	1	0	6	12	39
「古さ」の評価全体	2	10	0	16	12	0	14	14	68
＜物の印象＞全体	14	32	28	33	13	8	14	28	170

表 8　「古さ」の種類と＜物の印象＞

	楽しさ	落ち着き	整然・簡素	粗野	重厚さ	現代的	懐古的	差異性
時を経た古さ	0	7	0	2	6	0	4	5
使い込まれた古さ	0	0	0	6	0	0	0	4
デザインの古さ	2	4	0	8	10	0	11	6

4. 結論

住宅雑誌のリノベーション事例の解説に表れる表現の分析から、古さ住空間の価値観に様々な影響を及ぼすことを明らかにした。本研究ではリノベーションの事例のみを扱ったが、新築住宅の解説記事との比較や改修事例の解説記事の通時的な分析をすることで、「古さ」の価値観をより明らかにできるだろう。また、住宅雑誌が人々の価値観に与える影響の度合いを検証することで、より消費者の住宅観の実態に迫ることができるだろう。

リノベーションのメリットとして挙げられるように、コストの安さやエリアの選択肢の広さなどを生かして古い建物が活用されるのは素晴らしいことである。しかし、「古さ」の価値を発見していくことで住空間はさらに豊かなものになると考える。

参考文献：LiVES, 67 号−72 号, 2013, 株式会社第一プログレス　佐藤郁哉：質的データ分析法−原理・方法・実践, 2008, 新曜社　西條 剛央：ライブ講義　質的研究とは何か　SCQRM ベーシック編, 2007, 新曜社　松村秀一：建築−新しい仕事のかたち　箱の産業から場の産業へ, 2013, 彰国社　リクルート：既存住宅流通活性化プロジェクト報告書, 2008（http://www.jresearch.net/house/jresearch/kizon/　2013.2.17）　塩崎太伸, 山本洋一郎, 奥山信一：現代日本の建築家の設計論にみられるスケール言語, 日本建築学会計画系論文集 75(651), pp1087-1095 北川啓介, 米澤隆, 大井亮：建築物の言語描写における透明性の多義性, 日本建築学会計画系論文集 78(686), pp791-799, 2013-04　北川啓介, 米澤隆, 加藤聖仁, 山梨岳美：建築物の言語描写における＜間＞の多義性, 日本建築学会計画系論文集 78(692), pp2119-2126, 2013-10